

# いざい

経営者はいま

昭和五十一年、二十五歳の時、「一度きりの人生だから、自分の思うようにやりたい」とそれまで勤めていた会社を辞め独立、小城市津町に薬品卸会社「大平」を設立した。

「独立当初、自分に対し  
ンサルタントの資格取得のため勉強を重ね、現代医療の現状にも精通している副島社長は、来るべき高齢化社会の到来に目を向け、今年八月、同郡三日町大寺に介護用品専門店「タイヘイM&C」(電2222)

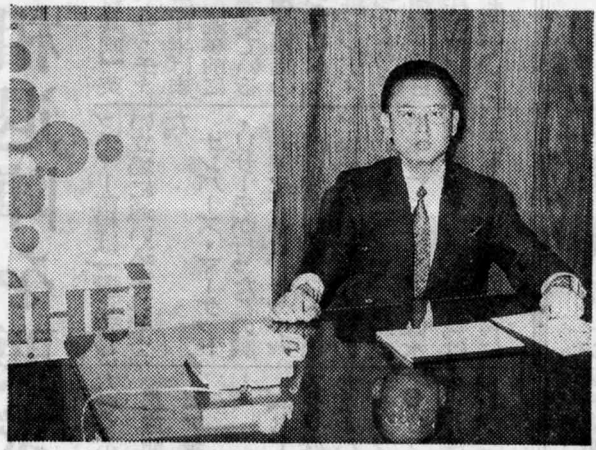
「これまで、がむしやりに働いてきた。うまくいかず、つまずきそうになっただけもあつたが、前向きな姿勢でこれからも頑張っていきたい」と語る副島幸雄社長(40)。「熱き心でチャレンジ」をモットーに掲げる。

独立から五年後、経営危機に見舞われるなどの苦労もあつたが、病院経営で急に親しくしてきたり、そのほを向いたり、人の反応はさまざまで、人間関係の難しさや大切さをつくづく知らされました」と当時を振り返る。

障者用食器などの小物から、車いす用階段昇降機な

## 高齢社会の福祉充実に努力

薬品卸大 副島 幸雄社長(40)



「熱き心でチャレンジ」をモットーに福祉サービスの向上を目指す副島社長

5)を開設した。店内には、紙おむつや身

「最新式のハイテク機器まで、西日本では最大規模の約五百品目を展示、販売している。県内の介護者や被介護者だけでなく、県外からの顧客も多いという。」

「これまで介護用品というカタログ販売が主だったため、本格的な介護用品専門店は日本でも少ない。じっくり見て、確かめることができるので、顧客の反応も上々です」と胸を張る。「将来は、ホームヘルパーを雇い、地域に密着した福祉サービスを充実させた」と語る副島社長。全国平均よりも十年は高齢化が進んでいるといわれている本県だけに、今後の動きが注目される。(小城市津町牛津)

